



平成 23 年 8 月 1 日

各位

会社名 帝人株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 大八木 成男
(コード番号 3401 東証大証第一部)
問合せ先 IR部長 池田 正宏
(TEL 03-3506-4395)

業績予想および配当予想の開示に関するお知らせ

平成 23 年 5 月 9 日公表の「平成 23 年 3 月期 決算短信」において未定としておりました平成 24 年 3 月期（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）の連結業績予想および配当予想について、下記の通りお知らせします。

記

●業績予想の修正について

平成 24 年 3 月期第 2 四半期(累計)連結業績予想（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	—	—	—	—	—
今回予想 (B)	395,000	22,000	23,500	11,500	11.68
増減額 (A-B)	—	—	—	—	—
増減率	—	—	—	—	—
(ご参考) 前年同期実績 平成 23 年 3 月期第 2 四半期	399,869	20,511	20,492	11,546	11.74

平成 24 年 3 月期通期連結業績予想（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	—	—	—	—	—
今回予想 (B)	920,000	61,000	61,000	32,000	32.51
増減額 (A-B)	—	—	—	—	—
増減率	—	—	—	—	—
(ご参考) 前年同期実績 平成 23 年 3 月期	815,655	48,560	50,345	25,182	25.59

業績予想の概況

震災の影響によるサプライチェーンの混乱は、概ね上半期中に収束することを見込んでいます。しかしながら、原油価格を筆頭とした原燃料価格の高止まりや円高の定着、更に世界経済の減速懸念等企業をとりまく環境は予断を許しません。

このような環境のもと、素材関連事業においては、自動車分野を中心とする需要の回復に即応した生産・販売の回復と、復興需要・節電需要に最大限応じることを目指していきます。また、昨年度でほぼ完了した構造改革の成果をフル発現することに加え、効果的なリスク管理の継続と、営業力と研究開発基盤の強化を図っていきます。新事業開発の分野では、重点分野の「バイオプラスチック」「高機能電子材料」「高熱伝導材料」「水処理」及び「先端医療材料」分野で、早期事業化に向け積極的な研究・開発を展開していきます。更には、将来の成長に資する有望な投資・プロジェクトに積極的に取り組むことで、「成長軌道への回帰」を目指します。

以上により、平成24年3月期の通期見通しは、売上高は9,200億円、営業利益は610億円、経常利益は610億円、当期純利益は320億円となる見込みです。なお、帝人グループでは、開示の適時性の担保及び業績管理の効率化の観点から、当期より全ての連結子会社が連結決算日(3月)で決算を行う予定であり、そのため一部の連結子会社では、平成23年1月1日から平成24年3月31日までの15ヶ月が、当期の事業年度となります。この変更による影響額は売上高800億円、営業利益70億円、経常利益70億円、当期利益45億円です。(全て上記の見通し額の内数)

●配当予想の修正について

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回予想	—	—	—
今回予想	3円00銭	3円00銭	6円00銭
(ご参考)前年同期実績	2円00銭	3円00銭	5円00銭

当社は、「連結業績に連動した配当」を行うことを利益配分の基本方針とし、併せて「財務体質の健全性や中長期の配当の継続性」を勘案して実施することにしていきます。

上記を踏まえ、平成24年3月期の配当につきましては、第2四半期末配当1株当たり3.00円、期末配当1株当たり3.00円(1株当たり年間6.00円)を目標といたします。

以上

見通しに関する注意事項：

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の予測数値や施策の実現を確約したり、保証するものではありません。